投資事業評価調書 新規）

課室名	砂 防 課	記入責任者職氏名 （担当者氏名）	砂防課長　西川昌一 （小寺三木三）	内線	４４５９ （４４６７）

事業種目	雪崩対策事業	事業名	事業区間	総事業費	約 1.5 億円
		雪崩対策事業 ＜大谷（おおたに）地区＞	豊岡市 大谷（おおたに）		
所　在　地				着工予定年度	完成予定年度
豊岡市　大谷				Ｈ１４年度	Ｈ１６年度

事　業　目　的	事　業　内　容
○防災対策 　雪崩危険箇所であり、雪崩による危険性が高いため、防災対策工事を行い、地域住民の人命を保護する。	雪崩対策事業（防災工事） 　擁壁工 　　Ｌ＝３８５．０ｍ 　　Ｈ＝３．３ｍ

評価視点	
(1)必要性 ○安全・安心	・雪崩危険箇所である。 ・保全人家１７戸、市道がある。 ・積雪量が多く、斜面と人家が密接しており危険性が高い
○快適性・ゆとり	・山村部の豊かな山並みは、地域の豊かな景観を構成するもので保全効果は高い。 ・雪崩の発生を防止し、ゆとりある快適な生活を提供する。
○その他	・当地区は、豪雪地帯特別措置法における豪雪地帯に指定されており冬季には常に集落雪崩の危険性が存在する。 ・人家裏の斜面は急勾配で、立木も少なく雪崩の発生し易い状態であり早期の対策が必要である。
(2)有効性・効率性 ○有効性 ○効率性	・保全人家戸数が多く、市道もあり事業効果が高い。 ・事業実施に向け、住民の要望が強く、同意も得ている。
(3)環境適合性	・擁壁工を斜面下に採用し、自然斜面を既存のまま残すことにより自然環境を保全する。
(4)優先性	・保全人家が多く、市道があり事業効果が高い。 ・積雪量が多く、斜面と人家が密接しており危険性が高い為、早急な対策が必要である。 ・過去に小規模な雪崩が発生しており、早期の対策が必要である。 ・地元要望が強く、事業執行体制は整っている。

評価の結果	着手妥当	左の理由	上記内容により着手が妥当と認められた。